

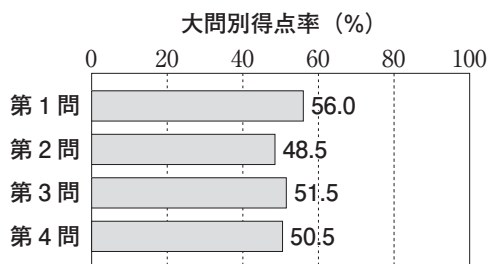
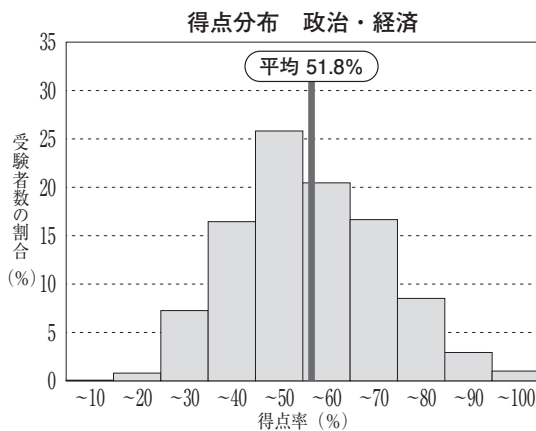
政治・経済

演習問題で実戦力を。最後の頑張りが成否を決する。

I. 全体講評

今回の「最終12月センター試験本番レベル模試 政治・経済」の平均点は51.8点で、これまでの最高得点であった。これまでの努力の成果が出てきている。しかし、まだ基礎部分に弱さが見られ、手薄な分野が散見される。特に戦後の歴史事項が極めて弱い。教科書掲載の歴史事項は何度でも読み直そう。まだあやふやで、定着していない知識をもう一度見直し、確実なものにすることが必要だ。

他教科と違い、直前の追い込みが効くのが「政治・経済」である。また、1点を争うセンター試験で、ケアレス及びイーゼーミスは致命傷になる。類題を本番形式で演習し、実戦力も磨いてほしい。この最後の頑張りが成否を決するであろう。



II. 大問別分析

第1問 選挙と政党

政党政治の基礎である選挙，議会に加え，世論・メディアを再確認しよう。

得点率は56.0%で、全4大問中では一番良くできていた。しかし、問6 [6] は正答率33.4%で、低調であった。「惜敗率」を見落としたものが大方である。「党議拘束」も基礎知識。日本の選挙制度、衆・参議院の違いなどの基礎知識を再確認しよう。やや不振だったのは、問10 [10] の社会契約説の基礎問題。ロックは「執行権」など特徴的な語句で判別すれば良い。問2 [2] の内外の政党の基礎知識、問4 [4] のドント式もやや不振。類題を演習して正確な計算を身に着けること。

第2問 南北問題

南北問題に関する内外の関連事項と、幅広い基礎知識を固めておこう。

得点率は48.5%で、全4問中で最も低かった。問1 [11] は正答率22.3%。労働三法及び最低賃金法は間違えやすく、類似問題が良く出される。教科書を再確認し、労働法規の基本的な役割を再確認して、確実な基礎知識にしておこう。問2 [12] も正答率25.8%と低調。日本の貿易の特徴、原発海外輸出は時事問題だが、福島原発事故に惑わされないようにしよう。

その他やや不振だったのは、問4 [14]。日本のODAはかつて世界一であったが、現在は順位を落とし、また贈与比率の低さが特徴である。

第3問 市場機構

市場機構の役割を具体的に理解し、経済体制の違いまで関連付けよう。

得点率は51.5%で、平均点に近い結果であった。そのなかで、問8 [26] は正答率22.2%であった。「社会主義市場経済」では、計画経済（集権的）から市場経済（分権的）に変えて需給を調整するが、政治体制は共産党一党独裁である。「一国二制度」

は、台湾・香港・マカオに資本主義国家体制の存続を認めて併存すること。間違えやすい設問であろう。

問7 [25]は正答率 34.6% で不振。社会主義についての初歩的知識である。問6 [24]も正答率 39.3% でやや不振。「市場の失敗」とは、市場機構で処理できないか、市場機構がうまく機能しない場合をいう。失業者は市場での需給関係で、市場機構が機能した結果である。

第4問 冷戦と日本の戦後外交

冷戦構造の対立と多極化の流れを年代・地域ごとにまとめ、関連付けて整理しよう。

得点率は 50.5% で、平均点に近い結果であった。そのなかでは、問2 [28]の「日ソ共同宣言」が正答率 21.9% であった。問1 [27]の「サンフランシスコ講和条約」も含め、中ソ韓との外交関係の基本事項を系統的に再確認しておきたい。戦後日本の国際社会復帰の歴史は手薄な分野。大きな流れのなかで基礎事項だけでも理解しておこう。

問8 [34]の「ヘルシンキ宣言」は正答率 28.6% で、選択が完全に分散した。しかし、解説を読めば分かるように、誤りの箇所は明確。慌てず判断すれば消去法で正解できる。問4 [30]は基礎的地理知識を伴った問題だが、意外に不振。問6 [32]も不振であった。冷戦期における、フランスや中国などの動きと第三世界を含めた多極化を把握しよう。

Ⅲ. 学習アドバイス

◆演習問題で本番を意識して学習する。

「政治・経済」は教科書の知識を基本とするが、現実の時事問題と結びつけて問題意識を持つことが出発点でもある。広範な知識を整理するには、**時代の流れと地理的な広がり**を意識することである。また、計算問題では、意味を理解し、実際に計算できるまでやらないと、「分かっているが正答できなかった」ということになる。「分かった」と「できる」とは大きく異なるのである。それには、演習問題を解くしかない。

◆センター試験本番に向けて。

演習問題や過去問で傾向をつかみ、用語集も絶えず脇に置き、丹念に何度でも確認することである。

直前まで語彙を増やし、本番での選択判断の手掛かりになるので、用語集は試験直前まで離せない。

また、時間配分も考え、なるべく早く正確にこなす訓練をしておこう。手間取る問題は後回し、取れるものを早くやり、最後まで見通してから、じっくり考える問題に取り掛かる訓練もしておこう。

最後まで、1点でも多く得点する執念を持って試験に臨もう。健闘を祈る。